

### Ⅲ 社会資本の現状とあるべき姿

Ⅲ—1 (8~9p)

#### 社会潮流・本県の特徴

##### 社会潮流

- ◆中四国の拠点としての期待
- ◆グローバル化の進展
- ◆アジアの著しい経済成長
- ◆東アジア地域からの観光客の増加

##### 本県の特徴

- ◆東アジアに近い地理的優位性
- ◆観光資源が豊富
- ◆2つの世界遺産
- ◆中四国地方最大の人口、産業、都市機能が集積する広島都市圏
- ◆製造品出荷額が中四国九州地方で1位
- ◆世界トップレベルの技術が集積

新たな経済成長

##### 社会潮流

- ◆環境に対する新たな要請の高まり
- ◆大規模地震発生への切迫性の高まり
- ◆東日本大震災や8.20土砂災害など想定を超える災害の発生
- ◆異常気象による局地的豪雨の頻発
- ◆少子・高齢化、人口減少の進行

##### 本県の特徴

- ◆全国最多の土砂災害危険箇所数

安心な暮らしづくり

##### 社会潮流

- ◆少子・高齢化、人口減少の進行【再掲】
- ◆低密度市街地の拡大や都市機能の拡散の進行

##### 本県の特徴

- ◆県土の3/4を占める中山間地域

豊かな地域づくり

Ⅲ—2 (10~11p)

#### 社会資本の現状

##### 強み

- ・井桁状の高速道路網
- ・全国上位の高速自動車道延長
- ・中四国地方最大のコンテナ取扱港湾である広島港
- ・基幹産業の物流を支える福山港、尾道糸崎港
- ・広島空港の充実した国際定期路線・便数

##### 弱み

- ・高速道路の交通渋滞等に弱い空港アクセス
- ・主要な道路を中心とした渋滞

##### 強み

- ・架橋事業の推進により本土と陸続きになった島しょ部
- ・利便性の高い沿岸部への人口・産業の集積

##### 弱み

- ・全国平均の2倍近い水害被害
- ・全国9位の土砂災害発生件数
- ・高度経済成長期に整備された多くの社会資本の老朽化が懸念

##### 強み

- ・井桁状の高速道路網【再掲】
- ・全国7位の県道実延長
- ・全国6位の港湾数

##### 弱み

- ・鉄道分断による都市機能の低下
- ・全国平均を下回る一般県道整備率

III—3 (12～15p)

10年後の社会資本のあるべき姿

広域交通

◆アジアとの取引が活発化し、アジアを中心とする海外成長市場の獲得が進んでいます。

中枢拠点性

◆県境を越えて「ひと」が集まり、中四国地方における広島県の中枢拠点性が向上しています。

物流基盤

◆企業活動を支える物流基盤の充実により、経済基盤の強化が進んでいます。

観光基盤

- ◆陸・海・空からのアクセス基盤が整備され、裾野の広い観光産業が発展しています。
- ◆観光インフラが整備され、「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」を確立しています。

環境保全

◆再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みづくりが進んでいます。

防災・減災

◆災害による被害を最小限にするための県土づくりが進んでいます。

既存インフラの機能保全

◆これまで整備してきた公共土木施設が適切に維持管理されています。

生活環境

◆支援や介護が必要な人が地域で安心して生活できる環境の整備が進んでいます。

交通安全

◆通学路や通行上危険な箇所を中心に、安全で安心な交通環境の整備が進み、交通事故が減少しています。

魅力ある地域環境

◆コンパクトで利便性の高いまちづくりに取り組むことなどにより、機能的で魅力的な都市が形成されています。

中山間地域

◆中山間地域においては、中心市と周辺地域等との連携を支える基盤の整備など、安心を支える生活環境づくりが進んでいます。

新たな経済成長

安心な暮らしづくり

豊かな地域づくり

## Ⅲ－１ 社会潮流・本県の特徴

### 1 社会潮流

- 国と同様、本県においても、今後も人口が減少し、本格的な高齢化が進むという、これまで経験したことのない時代を迎えます。
- また、今後、グローバル化が一層進展し、経済活動から日常生活に至るまで、様々な場面で影響を受けることが見込まれています。
- このため、社会資本整備については、従来型の発想の転換が求められるとともに、東日本大震災や8.20土砂災害など最近の異常気象による局地的豪雨への対応など、想定を超える自然災害への新たな対応の構築が求められているところです。

#### 主な社会潮流

##### 人口動態

- ◆ 少子・高齢化、人口減少の進行  
人口密度の更なる低下が懸念される中山間地域等を中心に、日常生活に必要な基礎的な機能、サービスの維持が困難化

##### 経済状況

- ◆ グローバル化の進展
- ◆ 中国をはじめとするアジアの著しい経済成長
- ◆ 地域主権推進と中四国の拠点としての期待
- ◆ 東アジア地域からの観光客の増加

##### 自然・環境

- ◆ 大規模地震発生の切迫性の高まり
- ◆ 東日本大震災や8.20土砂災害など最近の異常気象による局地的豪雨による想定を超える自然災害の発生
- ◆ 異常気象による局地的豪雨の頻発や台風の大型化、土砂災害・水害の発生リスクの増大
- ◆ 環境・資源・エネルギーに対する新たな要請の高まり

##### 都市構造

- ◆ 低密度市街地の拡大や都市機能の拡散の進行  
モータリゼーションの進展などにより、都市周辺部の開発が進められる一方、中心部は空洞化

### 2 本県の特徴

#### ① 地理的特性

- 本県は、今後、大きな経済的発展が見込まれる東アジア地域に近いという地理的優位性を有しています。
- また、風光明媚な瀬戸内海や中国山地など豊かな自然に恵まれ、古くからの交通・流通の要衝、産業の拠点としての道を歩んできました。

- さらに、夏の海水浴から冬のスキー・スノーボードまで、四季を通じて様々なレジャーを楽しむことができます。
- その一方で、本県の地質は、風化が進んだ崩れやすい花崗岩（マサ土）と流紋岩等から構成され、地形も全般的に急峻な山地が多いため、土砂災害危険箇所数が全国最多で、長雨や集中豪雨があるたびに、がけ崩れや、溪流からの多量の土砂流出により、公共施設、人家及び田畑の流出・埋没等の被害を受け、また尊い人命も失われています。

### 主な地理的特性

- ◆ 東アジアに近い地理的優位性
- ◆ 中四国地域の中心に位置する地理的優位性
- ◆ 瀬戸内海の歴史・文化・景観が調和した観光資源が豊富
- ◆ 2つの世界遺産（厳島神社、原爆ドーム）
- ◆ 四季を通じて様々なレジャーを楽しめる気候
- ◆ 全国最多の土砂災害危険箇所数（31,987箇所）

### ② 社会的・経済的特性

- 本県は、中四国地方最大の人口、産業、都市機能が集積する広島都市圏を有しています。
- また、製造品出荷額は中四国九州地方で1位であり、自動車産業をはじめ、ものづくり産業において世界トップレベルの技術が集まっています。
- その一方で、県土の4分の3を占めている中山間地域では、人口の流出や、商店等の撤退などにより、日常生活に必要な基礎的機能、サービスの維持が困難化しています。

### 主な社会的・経済的特性

- ◆ 中四国地方最大の人口、産業、都市機能が集積する広島都市圏
- ◆ 製造品出荷額が中四国九州地方で1位
- ◆ ものづくり産業において世界トップレベルの技術が集積
- ◆ 県土の3/4を占める中山間地域

【瀬戸内海の多島美】



【原爆ドーム】



【厳島神社大鳥居】



## Ⅲ－２ 社会資本の現状

- 本県の社会資本は、これまでの投資により、一定のストックが築き上げられてきました。
- これらの社会資本ストックは、県民の安全で快適な生活の維持や様々な社会・経済活動を支え、潜在機能を有した本県の「強み」となっている一方で、まだ整備が遅れている部分については、今後も改善すべき本県の「弱み」となっています。

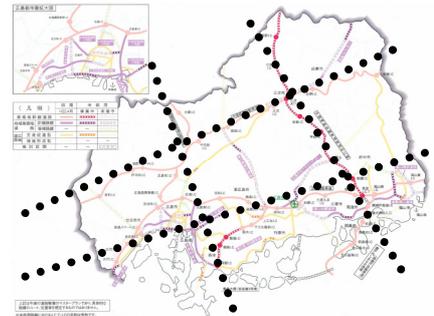
### 1 潜在機能を有した「強み」となっているもの

#### 新たな経済成長

- ◆ 広島空港、広島港、福山港等の定期路線や新幹線、高速道路等の発達した国内外との広域交通網
- ◆ 平成 26 (2014) 年度に形成された県境を越える井桁状の高速道路ネットワーク
- ◆ 全国上位の高速自動車道延長 (4 位)
- ◆ 20 分以内で高速 I C へアクセスできる 82 の産業団地
- ◆ 中四国地方で唯一 5 万トン級コンテナ船が係留可能であり、中四国地方最大のコンテナ取扱港湾である広島港 (国際海上コンテナ輸送網の拠点)
- ◆ 基幹産業の物流を支える福山港 (鉄鋼)、尾道系崎港 (木材)
- ◆ 自転車歩行者道が整備され、自転車でも本州から四国へ渡ることが可能なしまなみ海道
- ◆ 広島空港の充実した国際定期路線・便数 (5 路線週 31 便…国内 9 位 (H28. 1. 28 現在)、利用者数 (国内+国際合計) 2,719 千人…国内 15 位 (H26 年度))

〔イメージ図〕

平成 26 年度に形成された県境を越える井桁状の高速道路ネットワーク



#### 安心な暮らしづくり

- ◆ 架橋事業の推進により約 8 割の離島指定地域が本土と陸続きとなった島しょ部
- ◆ 流域下水道のスケールメリットを活かした広域的な下水道整備
- ◆ 利便性の高い沿岸部への人口・産業の集積
- ◆ 全国 1 位のプレジャーボート数 (15 千隻)

#### 豊かな地域づくり

- ◆ 平成 26 (2014) 年度に形成された県境を越える井桁状の高速道路ネットワーク [再掲]
- ◆ 全国 7 位の県道実延長 (3,683km)
- ◆ 全国 6 位の港湾数 (国際拠点港湾 1 港, 重要港湾 3 港, 地方港湾 40 港)

## 2 今後も改善すべき「弱み」となっているもの

### 新たな経済成長

- ◆ 高速道路の交通渋滞等に弱い空港アクセス
- ◆ 主要な道路を中心とした 96 箇所の渋滞ポイント

### 安心な暮らしづくり

- ◆ 全国平均の 2 倍近い最近 10 年間の水害被害額 (1,457 億円) と被害棟数 (18 千棟)
- ◆ 全国 9 位の近年 10 年間 (H17~26) の土砂災害発生件数 (389 件) と、呉豪雨災害 (S42)・県北西部豪雨災害 (S63)・6.29 豪雨災害 (H11)・庄原豪雨災害 (H22)・8.20 土砂災害 (H26) など度々発生する大きな土砂災害
- ◆ 過去 25 年間で 7 回発生した高潮被害
- ◆ 南海トラフ巨大地震の被害想定において 9 割を超える津波による死者数
- ◆ 要保全海岸延長が全国第 4 位と上位であるため、防護達成人口率は 60.7% に留まり、15.8 万人が未防護
- ◆ 未改良延長が 124 km あり、橋梁耐震補強整備率が 79.6% に留まる緊急輸送道路
- ◆ 高度経済成長期に整備された多くの社会資本の老朽化が懸念
- ◆ 全国平均 89.5% を下回る汚水処理人口普及率 (85.9%)
- ◆ 河川の底質悪化と海岸の埋立による藻場・干潟の減少
- ◆ 29.7% に留まるバリアフリー化された県営住宅
- ◆ 不足する子育て支援住宅 (50 戸/県営住宅 16,636 戸)
- ◆ 全国平均を下回る県道の通学路における歩道の整備率 (54.2%)
- ◆ 全国 1 位の放置艇隻数 (11 千隻)
- ◆ 全国上位の緊急対策踏切数 (24 箇所)

### 豊かな地域づくり

- ◆ 鉄道により市街地が分断され、円滑な交通などの都市機能が著しく阻害されている広島市東部地区
- ◆ 77% に留まる市町中心地へ 30 分でアクセス可能な人口
- ◆ バス路線のうち現況 1 車線の未改良延長は 73 km
- ◆ 観光周遊に資する道路の未改良延長は 255.8 km

【H26.8 集中豪雨による  
広島市の被災状況】



### Ⅲ－３ 10年後の社会資本のあるべき姿

- 広島県の総合計画「ひろしま未来チャレンジビジョン」の基本理念では、地域社会全体の価値を高めることで、「将来にわたって、『広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかった』と心から思える広島県の実現」に取り組んでいます。
- また、目指す姿を実現するため、「人づくり」、「新たな経済成長」、「安心な暮らしづくり」、「豊かな地域づくり」の4つの政策分野を相互に関連させ、相乗効果をもたらしながら好循環させることにより様々な挑戦を行っていくこととしており、土木建築局が所掌している施策分野においても、効率的かつ効果的に施策展開していく必要があります。
- 社会資本は、県民一人ひとりの日常生活や企業活動に至るまで、あらゆる場面で影響を与える基盤となっており、生活の質や安全性を高める上で、重要な役割を担っています。
- 「将来にわたって、『広島に生まれ、育ち、住み、働いてよかった』と心から思える広島県の実現」に向けて、基盤となる社会資本をどのようにマネジメントし、どのような分野を重点化していくのかの方向性を考えていくためには、まず、目指すべき社会資本の将来像を明確にしておく必要があります。
- 特に社会資本が担う役割が大きい「新たな経済成長」、「安心な暮らしづくり」、「豊かな地域づくり」の各分野において、「ひろしま未来チャレンジビジョン」が目指す姿に照らし合わせた、10年後の社会資本のあるべき姿は次のとおりです。

#### 1 新たな経済成長

##### 広域交通

- 陸・海・空が一体化した利用しやすい広域的なネットワークが形成され、海外との取引が活発化することで、アジアを中心とする海外成長市場の獲得が進み、世界に向けて大きく羽ばたいています。

##### 中枢拠点性

- 県境を越えて、「ひと」が集まり、「ひと」と「まち」がつながれることにより、商業、医療、行政等の様々な機能が集積し、中四国地方を強力に牽引する広島県となっています。

##### 物流基盤

- 物流基盤の充実により、「モノ」が集まり、企業活動が支えられ、経済基盤の強化が進んでいます。

##### 観光基盤

- 陸・海・空からのアクセス基盤が整備され、国内外からの観光交流人口の増加や観光地間の周遊性をもたらすことにより、裾野の広い観光産業が発展しています。

- 観光インフラが整備され、「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」を確立しています。

## 2 安心な暮らしづくり

### 環境保全

- 再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築が進んでいるとともに、自然環境の保全が進んでいます。

### 防災・減災

- 災害時の被害を最小限にするための県土づくりが進むとともに、自ら身を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、県・市町の行う「公助」の役割分担と連携による、社会全体で防災・減災対策に取り組む社会が構築されています。

### 生活環境

- 住宅や主要旅客施設周辺のバリアフリー化率が高まり、支援や介護が必要な人が、地域で安心して生活できる環境の整備が進んでいます。

### 交通安全

- 通学路や通行上危険な箇所を中心に、安全で安心な交通環境の整備が進み、交通事故が減少しています。

### 既存インフラの機能保全

- これまで整備してきた公共土木施設が適切に維持管理され、安全で快適な日常生活を送っています。

## 3 豊かな地域づくり

### 魅力ある地域環境

- コンパクトで利便性の高いまちづくりに取り組むことなどにより、機能的で魅力的な都市が形成されています。

### 中山間地域

- 中山間地域においては、地域の安全・安心の確保に向けて、中心市と周辺地域等との連携を支える基盤の整備など、安心を支える生活環境づくりが進んでいます。

**10年後の本県の姿  
(社会資本のあるべき姿)**

**広域交通**

陸・海・空が一体化した利用しやすい広域的なネットワークが形成され、海外との取引が活発化することで、アジアを中心とする海外成長市場の獲得が進み、世界に向けて大きく羽ばたいています。

- 県内全体に広がる井桁状の高速道路ネットワークの形成
- 広島港・福山港の定期コンテナ航路の維持・拡充
- 広島空港の利用者増による定期路線の拡充
- 渋滞損失時間の削減

**中枢拠点性**

県境を越えて、「ひと」が集まり、「ひと」と「まち」がつながれることにより、商業、医療、行政等の様々な機能が集積し、中四国地方を強力に牽引する広島県となっています。

- 広島市2時間(自動車)交通圏人口が拡大
- 中国地方全土から広島空港を利用
- 広島空港の利用者増による定期路線の拡充

**物流基盤**

物流基盤の充実により、「モノ」が集まり、企業活動が支えられ、経済基盤の強化が進んでいます。

- 高速ICへ20分でアクセスできる県内産業団地数の増加

**観光基盤**

陸・海・空からのアクセス基盤が整備され、国内外からの観光交流人口の増加や観光地間の周遊性をもたらすことにより、裾野の広い観光産業が発展しています。

- 高速ICから20分でアクセスできる観光地数が増加
- 観光周遊を促進する道路ネットワークの形成
- クルーズ客船の入港回数が増加

**観光基盤**

観光インフラが整備され、「ひろしまブランド」や「瀬戸内ブランド」を確立しています。

- しまなみを核とした県内のサイクリングロードの魅力向上
- 世界遺産(厳島神社)の玄関口の利便性向上

**環境保全**

再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築が進んでいるとともに、自然環境の保全が進んでいます。

- 汚水処理普及率の上昇

**生活環境**

住宅や主要施設周辺のバリアフリー化率が高まり、支援や介護が必要な人が、地域で安心して生活できる環境の整備が進んでいます。

- 主要施設のバリアフリー化が進み、福祉のまちづくりが進展



